

提出日 2021年 8月 24日

長期戦略:テーマ 「国際化の推進」

Ⅱ.実施計画帳票

構想調書 2(2)②③④ 独自性 2(1)(2)(3)

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	学長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	担当部署 総合企画部(SGU)
-----------------------	---------------	---------------	--------------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(6)-⑱ (SGU5-1) (SGU5-1) グローバル化推進本部およびグローバル化推進室の設置	2014年度	2023年度	必要なし	不要
内容				
<p>1. 「グローバル化推進本部」の設置</p> <p>本構想に基づいて大学改革と国際化を徹底して断行し、教学・経営両面で国際水準の大学となるために、全ての部門(機構・部署)、全ての学部・研究科で改革を進めるための司令塔として「グローバル化推進本部(仮称)」を創設する。同本部は、学長(副理事長)を本部長とし、教務機構長(副学長)、国際連携機構長(副学長)と、実際に事業推進に取り組む中核の教員・職員によって構成する組織で、本構想を具体化するための方針策定、部門間の調整、全体整合性の確保等を推し進める。</p> <p>また、各施策の進捗管理、共通指標・独自指標による成果検証を担うほか、後述する外部評価委員会の第三者評価の結果やプログラム委員会の中間評価の結果を踏まえて事業の改善に結びつけるなど自律的なPDCAを循環させる。</p> <p>同本部は、大学における教学の意思決定機関である大学評議会の下に設置された「教育課程基本方針策定委員会」(学部長・研究科長を中心に構成)に進捗を報告するとともに、学内での多様な取り組み・アイデアを共有し、全学一体となって構想実現に取り組む。</p> <p>2. 「グローバル化推進室」を設置</p> <p>グローバル化推進本部の事務局として「グローバル化推進室(仮称)」を設け、「総合企画室(仮称)」と連携・協力しながら推進の実務作業に当たること、大学全体が一体となって国際化と大学改革に取り組む体制を整える。</p> <p>3. 入学前からの情報提供の充実</p> <p>各種入試合格者を主な対象として、入試合格時から入学までの間に、広報物やメールマガジンの定期的な配信等により、学生本人やその父母に向けて留学を動機づけ、留学を含む修学プランの構築を促す。</p> <p>4. 本構想に関するウェブサイト開設</p> <p>本構想に関するウェブサイト新たに構築する。申請案を公表するだけでなく、全体像や個別施策などを分かりやすく説明。進捗状況、進展の具体事例、自己点検・評価、共通指標・独自指標などによるアウトプット・アウトカム評価、第三者評価、中間評価の結果等も掲載し、社会への説明責任を果たす。</p>				

進捗状況を測る 指標	指標名	定義・算式
指標1		

目標1<指標1>

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標						
実績						
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標						
実績						

2. 実施計画:ロードマップ

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
グローバル化推進本部およびグローバル化推進室の設置	策定段階		設置			
	2022年3月末段階	グローバル化推進本部の設置	グローバル化推進室の設置			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階					
	2022年3月末段階					
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階					
	2022年3月末段階					
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
日本人学生の留学支援体制の構築(各種入試合格者への入学前の留学情報提供)	策定段階	開始				
	2022年3月末段階		開始			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階					
	2022年3月末段階					
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階					
	2022年3月末段階					

		2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	
スーパーグローバル 大学事業ウェブ サイトの作成・運用	策定段階	構築	運用				
	2022 年 3 月 末段階						
			2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	策定段階						
	2022 年 3 月 末段階						
			2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階						
2022 年 3 月 末段階							

3. 実施計画:費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】 2022年8月末段階

非公開

経費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
----	----------	----------	----------	----------	----------	----------

非公開

人員・人件費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
--------	----------	----------	----------	----------	----------	----------

非公開

経費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度承認	2023年度	2024年度以降
非公開					
人員・人件費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度承認	2023年度	2024年度以降
非公開					

4. 進捗状況・得られた成果

2015 年度	<p>■2(2)②具体的ビジョン、中期計画等の策定 SGU 構想は中期計画に組み込まれ、総合企画会議にて施策・予算が承認される仕組みとなっている。</p> <p>■2(2)③迅速な意思決定を実現する工夫 ステアリングコミッティが設置された。</p> <p>■2(2)④意思決定機関等への外国人の参画 進捗なし</p> <p>■独自性(1)ガバナンス改革(2)総合的マネジメント(3)トップ支援機能の強化</p> <p>(1)総合企画会議への起案をするための理事長・学長・院長・常務・常任理事だけの「ステアリングコミッティ」が設置された。</p> <p>(2)総合的マネジメントに向けて野村證券と①コンセプトの検討②米国大学の事例研究③経営最重要指標(KPI)ダッシュボードのモデル作成に取り組んだ。また、中期総合経営計画策定のための外部環境(マクロ)分析を博報堂および野村総研と共同で行った。①②はグローバル化推進室、③は企画室が取り組み、それぞれ理事長・学長を中心として成果報告会を行い、共有した。</p> <p>(3)SGU 構想実現のための司令塔として学長の下にグローバル化推進本部を 11 月に創設した。また、複数の部署が連携する必要がある主要テーマごとにタスクフォースを本部の下に設置し、検討を進めた。</p> <p>(4)2015 年度には正式な部署としてグローバル化推進室に移行することを前提にグローバル化推進本部事務局(専任職員 3 人体制)を設けて SGU 推進のための事務体制を整えた。</p>
2016 年度	SGU 事業を順調に推進できた。
2017 年度	同上
2018 年度	同上
2019 年度	同上
2020 年度	SGU 事業を順調に推進でき、第 2 回中間評価で A 評価を受審した。
2021 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2016 年度	2015 年 4 月 1 日に設置されたグローバル化推進室が、グローバル化推進本部の事務局を担い、「スーパーグローバル大学創成支援」事業の目標達成のため、事業の推進、調整等を行う。 同時に、SGU web サイトを使った広報活動や、留学支援活動を行う。外部評価委員会を設置し、第三者評価を受審する。
2020 年度	外部評価委員会を開いて第三者評価を受審するとともに、SGU プログラム委員会が実施する第 2 回中間評価で A 以上の評価を得る。
2021 年度	コロナ禍の影響による社会の変容に対応しつつ、SGU 構想の実現に向けて継続して事業の推進、全学調整等を行う。
2022 年度	SGU 事業最終年度の目標達成に向けた事業推進と、ポスト SGU に向けての事業の精査・検討を行う。
2023 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2014 年度	消耗品費については、「国連・外交コース」での消耗品分を統合して承認します。 旅費、会議費、通信運搬費、印刷製本費、諸経費については、申請通り予算化を承認します。ただし、主要施策に関するシンポジウム開催や、全施策における「想定していない経費」に係る費用については、当予算で対応してください。 人件費(派遣職員 2 名、アルバイト 1 名)については、申請どおり予算化を承認します。 人件費(SIL2 名分)については、当初予算(人件費)にて計上済。
2015 年度	消耗品費、旅費、諸経費、その他手数料、予備費については、概算費用の範囲で計画を承認します。 国費外国人留学生授業料免除分および人件費については、申請どおり計画を承認します。 ※SIL2 名分は 2016 年度まで。
2016 年度	—
2017 年度	—
2018 年度	英語学位コース任期制教員増員分については、配置以来の効果検証を 2018 年度中に行います。
2019 年度	—
2020 年度	—
2021 年度	—

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019～2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
・第2回中間評価受審に取り組んだ。	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ <input type="checkbox"/> 廃止	・ポスト SGU に向けた総合的な事業継続判断の実施

【フェーズⅡ (2022～2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	<input type="checkbox"/> 継続 ・ <input type="checkbox"/> 廃止	